



造形および表現領域における 材料研究と教材研究

人間科学部
子ども教育学科
講師

富永 剛



研究シーズの紹介

造形および表現の授業の在り方や進め方を検証するため、2つのテーマを設けて研究しています。

A. 【材料の特性を生かした造形活動】

現在の幼児教育における造形分野では、社会変化とともに多様な材料が用いられています。自然素材から人工的なものまで、素材の持つ可能性を探求していくことが、これからの造形教育を深化させ、子どもの感性を豊かにしていくことに繋がると考えられます。

B. 【子どもの豊かな感性を育むための子育て支援】

実践的な教材開発とその指導法研究の一環として、子育て講座「ハロウィン飾りを作ろう!」を九州産業大学子育て支援室を利用する親子を対象に実施しました。



A. 素材の可能性を広げる!

- 実際に使われていた“煙突”を使った作品「SHARE」



B. 子育て支援（地域連携）!

- 子どもが自由に表現することをねらいにし、親子で楽しむことができる活動を展開

A. 「第4回芸術実験 比良松郵便局と篠崎醤油蔵」 (於:朝倉市)



B. 子育て講座「ハロウィン飾りを作ろう!」

「いろんな素材に触れる」ことを講習のテーマとし、九州産業大学子育て支援室を利用する親子を対象に体験型の講座を実施した。

講座の前半では、幼児教育実践事例としてレτζョ・エミアでの活動の様子を動画で紹介し、その後、本講座における活動と幼稚園教育要領に記載されている保育内容(表現)の内容とのつながりを説明した。造形体験では、親子が一緒にハロウィン飾りの制作に取り組み、多様な素材に触れることで、それらが持つ感触を楽しみながら素材の特徴を理解することができた。

<活動内容>

1. まずはいろんな素材に触れてみましょう。
2. 気に入った素材をカプセルの中に詰めましょう。
3. シールでカプセルに顔を描いて完成!

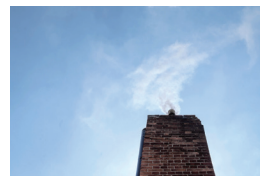
期待される活用シーン

A

- 多様な表現を見たい。
- 素材の可能性を知りたい。



幼児教育において素材の可能性を広げていくことは、子どもの感性を豊かにしていくことに繋がります。



B

- 子どもの造形活動の実践例を知りたい。
- 子どものことを理解したい。



今後も継続的に子育て講座を実施し、地域の子育て支援に貢献していきます。

